

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271300119		
法人名	特定非営利活動法人 優輪会		
事業所名	グループホームしおん		
所在地	静岡県駿東郡清水町徳倉1274-1		
自己評価作成日	平成23年11月19日	評価結果市町村受理日	平成24年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2271300119&amp;SCD=320&amp;PCD=22">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2271300119&amp;SCD=320&amp;PCD=22</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成23年12月10日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念として、福祉とは、人と人との優しい支えあいから生まれ、その人がその人らしく生活するなかで支えや優しさが必要なとき、優輪会という「わ」のつながりをもって「そのひとらしさ」をとりもどせる環境づくりをしたい。そんな福祉サービスでありたいと考えています。そのような思いの中、利用者様が何を求めているか、何がしたいかを常に考え、ご本人やご家族様と話し、一人一人の生活スタイルの合わせられるよう心掛けています。日々の生活の中では、ちょっとした思いやり、ちょっとした心配り、ちょっとした声かけその「ちょっとしたことがとても大事」ということを意識し、心と心で向き合えるよう努力しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から10年の経緯の中で職員を育て、地域との関係を構築しながら地域密着型サービスとして着実に展開されていることが確認された。基本となる理念の共有はもちろんのこと、その理念の実現に向け職員個々が自らの経験や力量に応じた個別目標を掲げており、合わせて管理者による個別面談も時期を決めて行われている。研修の機会も内部外部を問わず積極的に提供し職員の意欲を大切にしている。「その人らしさ」を大切にされた支援の実現に向け職員全体としての同じ方向を目指して質の向上に取り組み、その結果利用者、家族、地域とも良好な関係が築かれている。また地域の他ホームとの連携も積極的に研修や行事の共同開催、職員交流等に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を掲示して職員が共有できるようにしている。	事業所としての理念を実践するための個人目標を職員個々が自ら定めており、理念とともに掲示されている。また時期を決めて行われている管理者と職員の個別面談で個人目標の達成状況等の確認や話し合いがされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事の参加や自治体に加入し清掃活動等を行っている。	地区で開催される高齢者のサロンの案内が毎届き、随時希望者が参加するなど日常的に交流が行われている。また利用者の参加が困難な清掃活動や防災訓練には職員が参加し、事業所としても地域との関係が構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも相談に来れるように常に解放している。また、施設行事には近隣住民も参加してもらい、その時などに認知症の相談の確保や理解を得てもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、ご家族に参加してもらい、その都度ご要望や意見を聞き、サービスに取り込むようにしている。	民生委員、地域包括支援センター、家族の代表、利用者等が参加し2カ月に1回開催され参加者の理解も得られている。会議の中の家族や本人からの要望に対応し、希望する買い物を実現するなどサービス内容にも反映されている。	民生委員を通じて打診している自治会関係者の参加の実現や、当番制で代表の参加となっている家族からの意見の吸い上げ方法の検討によって、現在の基盤を生かした新たな取り組みの展開を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場や地域包括支援センターと定期的に情報交換の場を持っている。	町役場とは介護保険や生活保護等の各種申請や手続きを通じ、その際に担当者が必要な情報交換を行っている。地域包括支援センターは役場の直営型であり運営推進会議には毎回参加しており情報の共有、意見交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの指針を掲示すると共に出来る限り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束0宣言が掲示されており、マニュアルや内部研修を通じスピーチロックなどにも意識した対応が実践されている。やむを得ず行われる場合の同意書も作成されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修も行き、虐待が無い職場を職員一同心がけ実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が必要な研修を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、計画作成者において説明、同意を経ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所の際、話し掛けるようにし、日々の中からニーズを汲み取るようにしている。	家族とは運営推進会議や年に2回開催する家族参加の「しおんまつり」の機会を活用している。また日常的には来訪時に必ず職員が話をし、また面会の少ない家族でも月1回以上の連絡の電話を活用し話しやすい関係の構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を行い、ニーズの共有をしている。	毎月1回開催している会議や1日3回の申し送りを通じ職員の意見の把握や業務の改善に役立てている。また管理者と職員の個別面談も毎年時期を決めて行われている他、適宜職員が管理者に話をできる関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自目標を設定し、努力の過程や結果、など考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修も行き、虐待が無い職場を職員一同心がけ実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の研修に参加し情報の共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行い、出来たら体験利用をしてもらう。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接時において状況を十分に聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に関わる他業種のワーカーなどと十分に意見交換をし、一番良いサービスが出来るように検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の言動や行動を見逃さないように観察し、日々の生活を共に過ごすように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と意見交換する機会を持ち、共に支えているという意識を両方が持てるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との面接や交流、馴染みの場所の話題などを取り入れるようにしている。	地元の利用者も多く地域のサロンへの参加や友人や趣味の仲間の来訪など交流が継続されている。また墓参りや行きつけの理髪店や商店、自宅等への外出についても希望に合わせ職員の同行等、随時対応し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が側面的援助を心がけ、利用者様がコミュニケーションが取れるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これから支援を必要とする人たちの相談や話しを聞き、受け入れる環境や体制を設け、必要な時に支援していくようにする。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活やご家族との関係の中で、利用者さんの希望などを聞き、できるだけ聞き入れる事を心掛けている。	事業所独自のアセスメント票とセンター方式を組み合わせ、生活歴等を適切に把握している。また職員は日常のコミュニケーションから利用者の意向を汲み取るよう配慮しており、家族の意見も傾聴している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中で生活歴を話し求めている 今までの暮らしを把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活やカンファレンス等で今現在の問題を挙げ、まだ残っている力を継続し、出来るだけ自分でやってもらうよう自立支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士意見交換をしたりして計画を立てている。	介護計画は6ヶ月に一度の定期更新の他、状態の変化があればその都度適切に更新している。更新時には必ず家族と面接し、その意見が計画に活かされるよう良く検討されており、実践的な介護計画となっていた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録や気になった点等や計画などカンファレンスに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス等の施設を生かし、交流、行事等を合同して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事において、ボランティアの要請を行っている。毎年防災訓練においては、消防署員との連携を取っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望を聞き、入居前からのかかりつけ医お継続やホーム提携医療機関への移行など、適切な医療が受けられるように支援している。月2回の往診や看護職員の定期訪問などの体制も整えられている。	提携医以外の受診は家族が対応しているが、特別な医療(耳鼻科・眼科等)は職員が付き添い受診している。また非常勤の看護職員も配置されており、緊急時の医療連携も的確であることから家族からの信頼も厚い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が日常の健康管理や健康相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談室や病棟との関係を持ち、適宜に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応の説明を行ったり、指針や同意書の準備は行われているが、職員間での意識統一やマニュアル整備の確立までには至っていない。	重度化には充分に対応できる体制がある。また利用開始時には、本人・家族もターミナル体勢についての意向確認が実施されているが、現状ではホームでの看取り実績はない。しかし管理者や職員の意識は高く、法人内での研修も実践されていた。	ターミナルケアは高齢者介護において今後の大きな課題である。現状の意識、意欲を維持継続し、家族との話し合いや同意書の見直し、職員研修を積み重ねて行く事が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応をマニュアル化し、いつでも閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年2回の定期的な避難訓練を行っている。自治会の隣保班に加入し、地域防災計画に組み込まれているが、具体的な夜間協力体制等が築かれている姿は見られなかった。	スプリンクラーや消火器の設置、緊急時の備蓄もあり、災害対策に対する意識の高さを感じた。1ユニットの利点を生かし、緊急避難にも大きな不安はない。地域連携については運営推進会議での検討課題となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しその人にとって一番馴染める言葉かけや対応をしている。	排泄や洗面時等、声のかけ方や声量も適切で利用者の尊厳に配慮する姿勢が見えた。また利用者の人格を尊重しつつ家族として接するため、職員が常に情報交換を実施しており、適切な対応となるよう日々努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重している。利用者様の思いを聞き、対応するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様本位に柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切にして、自分で選べる方には、好みによって服を選んだり、整髪している。理美容はボランティアをお願いすることが多い。洋服の買い物に同行している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みや希望を献立に取り入れている。食事の準備や片付けは職員と一緒にやっている。	食材は業者仕入れであるが、献立は利用者に合わせている。また行事食や特別食・季節の外食も充実しており、利用者の楽しみとなっていた。利用者は盛り付けや配膳、食器拭き等に積極的に参加し能力を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分摂取量状況をチェック表に記録し、個々の栄養状況も見極めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じた自立支援をし、毎食後、口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方も多いが、定期的にトイレ誘導し失禁状態を無くすように心掛けている。	尿意のない利用者もいるが、的確な誘導で排泄の自立を図っている。また職員の観察による声かけのタイミングも適切である。一部のトイレ扉がカーテンとなっていたが、職員の付き添いでプライバシーは守られていた。	開設時からトイレ扉がカーテンとなっていた、との事であるが。地域に開かれたホームとして、プライバシーへの配慮を今後の検討課題とされたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と下剤についてよく話をし、毎日体操等で身体を動かすようにしている。水分を摂ってもらい、自力で排便が出来るように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態で入浴の状況を観察するため、入浴日を決めている。希望により時間帯を考慮している。	隔日入浴が基本方針であるため、週3回の入浴を目標として声掛けを実施している。入浴を好まない利用者には職員が適切に誘導している。また入浴時間の希望にも出来るだけ対応するよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況を考慮し、休息をし促したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成している。いつでも確認することが出来る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な調理の補助や片付け、食器拭き、洗濯物をたたむ等、日常生活において一緒にやる様に心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等を通じ、戸外に出るようにしている。また、	天候が良ければ毎日でも外に出る事が出来るよう配慮しており、雨天や荒天時には、廊下を利用した歩行訓練を実施している。また買い物や馴染みの床屋・季節の行事等へ外出し、社会と関わる事が出来るように、様々な支援を展開している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室での管理はトラブル防止の為遠慮していただいているが、個々の財布を預かり買い物際にはご自分で支払うようにしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの申し出があれば対応している。また、家族より電話があったときには取り次ぐようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、日当たりも良く明るく清潔である。廊下や壁面には、ホーム行事の写真や利用者様と一緒に作った季節の創作物が飾られ、居間のソファなど居心地良く過ごせる環境他整えられている。	明るく生活感のある共用空間となっており、日中はほとんどの利用者が自然に集う、憩いの空間となっている。行事の写真や利用者のクラフト作品が飾られた共用空間では、利用者が自分の居場所として認識しており、その人らしく過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの位置など、空間作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入り口には手作りの表札があり、室内には利用者様の馴染みの備品などが持ち込まれ、自分の部屋として居心地良く過ごせるように配慮している。	居室には、エアコンや洗面台・整理筆筒が標準装備されており、希望があればテレビの設置も可能である。職員と利用者が共同で整理整頓し、危険の無いよう配慮された居室には利用者が馴染みの生活用品を持ち込んでいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の場所やトイレの場所が分かるように日頃から声かけを行い、自覚してもらえるように努めている。		